

MS Word による論文執筆講座（第 10 回）—MS Word の入手—

森谷 友昭（編集幹事 東京電機大学）

Guide for Writing Papers Using MS Word (the 10th) : How to get MS Word

Tomoaki MORIYA (Tokyo Denki University)

本学会では、論文の執筆フォーマットとして TeX と (MS) Word を用意している。Word は Windows 環境では長年に渡り使用されている定番の文書作成ソフトである。しかしながら論文のように与えられたフォーマットに沿った文書を作成したい際に思い通り扱えない場合も多い。本連載では論文執筆の際覚えておくと便利な Word の操作を、毎回ピンポイントで紹介している。ちなみに本連載自体も Word にて執筆されている。

今回は、本題から少し話がそれるが、Word の入手方法について述べる。先日、画像電子学会年次大会内での特別企画として「論文執筆講座～なぜ書く、どう書く、どう通す～」を開催させていただいた。話した内容については、当日用いたスライドを Web 上に公開しているので、もし内容に興味のある方は、そちらをご覧ください。その中で、Word、正確に言えば (MS) Office の現状の入手方法やサービスについても述べたが、あまり知られていないようだったので今後の助けになればと、こちらでも書かせていただく。

図 1 に示すように現在 Office を入手するには主に 2 種類の方法がある。従来のように買い切りの Office2016、また 1 カ月、または 1 年ごとに料金を支払うサブスクリプション方式と呼ばれる Office365 Solo である。結論から言ってしまうと特に理由がない限りサブスクリプション方式を選択すべきである。買い切りの Office2016 は約 35,000 円（学割は廃止された）、Office365 Solo は 1 年約 12,000 円で、買い切りの Office は約 3 年ごとに最新のバージョンが発売されるため（次のバージョンは 2019 が予定されている）、買い替えを考えるとあまり値段差がないためである。またサブスクリプション方式では、Office アプリを使用できる機器の台数が最大 5 台となり、PC やタブレット、スマートフォンなど端末を問わず利用できる。また 1TB のクラウドストレージ、OneDrive も同時に提供される。OneDrive 上に置かれた Office 関連のファイルは編集時の自動保存、バージョン履歴の自動記録が有効となるため、編集中にフリーズなどが起きても作業のやり直しを最小限にとどめることができるなど非常に心強い。

ここからは、対象が大学研究室など教育機関向けとなってしまうが、Office を安価に入手する方法がある。それは研究

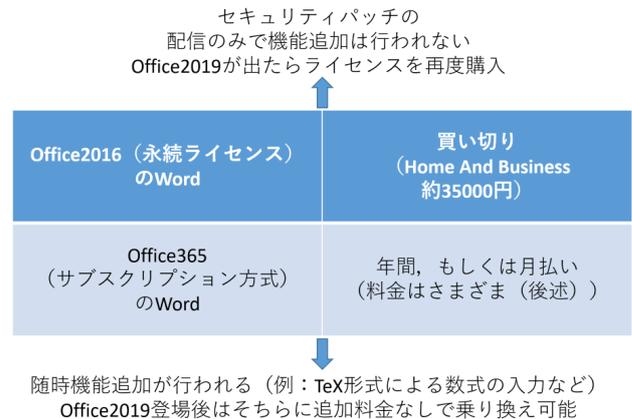


図 1 MS Office の入手方法

Fig.1 How to get MS Office

室で Office 365 Education²⁾に加入するというものである。同じ名前の Office365 でややこしいが、これは個人向けの Solo とは大きく異なり、メールシステム (Exchange)、コミュニケーションシステム (Teams)、Skype for Business など、研究室に必要な IT サービスを無償で提供するものである。Office と名の付く通り、Office も勿論提供されるがブラウザ版と OneDrive のみとなる。ただし、1 ユーザ 1 年 3,000 円のライセンスを購入することで Office365 Solo と同様に 5 台の端末でアプリ版の Office を利用できるようになる。研究室の IT サービスの更新に悩んでいる担当者には是非ともお勧めしたい。

参考文献

- 1) <https://vcl.jp/~moriya/ronbun/>
- 2) <https://products.office.com/ja-jp/student/office-in-education>



森谷 友昭 (正会員)

2007 年 東京電機大学大学院先端科学技術研究科情報通信メディア工学専攻博士課程入学、2010 年 同 修了。同年 同大 未来科学部情報メディア学科 助教、2018 年 同大 未来科学部情報メディア学科 准教授、現在に至る。コンピュータグラフィックスの研究に従事。ACM SIGGRAPH、電子情報通信学会各会員、本学会編集幹事。